

未来ノート

-202Xの君へ-

テニス

錦織圭



子ども時代の夢

大切にしている言葉

父親からの教え

世界へはばたく

5歳で壁打ち ライバルは姉

錦織圭(27)が初めてテニスラケットを握ったのは5歳のときだ。

「覚えているのは自宅前で壁打ちしていたこと。とにかく外で遊びたくて。サッカーは一人でやるのは難しいし、色々なショットを

打って、壁と戦うのが楽しかった。「戦う」という感覚が、錦織らしい。

コートでの練習は毎週末、父清志さんが指導し、4歳上の姉玲奈さんと3人でするのが習慣だった。「基本技術を教えるだけで

と子どもはあきちゃう。おもしろい、楽しいという部分がないと。だから休憩時間は長く取るようにした」と清志さんは振り返る。

錦織も息抜きの時間が楽しかったという。

「サーブスラインまでの範囲のミニテニスはよくやってました」。繊細なボルトタッチの技術は、幼少の遊びで自然と磨かれた。

しかも、何回ラリーが続くかといった共同作業ではない。「あくまで勝つか、負けるか。真剣勝負です。僕がけっこう勝っていたと思う」。自称「超負けず嫌いの性格は姉との対決を通じて養われたのだろう。

そういえば、テニス界にはウィリアムズ姉妹(米)、マリー兄弟(英)、最近売り出し中のスベレフ兄弟

(ドイツ)ら兄弟、姉妹の一流どころがいる。そして、妹、弟の方が成績が上のケースが目立つ。

錦織に水を向けると、「あつ、たしかに。フィギュアスケートの浅田真央選手とかも。僕の場合、やっぱり、身近なライバルとして姉という目標がいたのが向上心につながった」。

錦織が姉と対戦して勝てるようになったのは小学校6年のとき。ちょうど、「将来の夢」に、「テニスで世界一になりたいです」と書き残したころだ。(稲垣康介)

◇ 2020年東京五輪・パラリンピックに向けて、トップ選手の子どものころの体験を紹介する新連載を始めます。今回は10日に掲載予定です。

◆「未来ノート」スクラップブックは、全国のASA(朝日新聞販売所)でお配りしています。インターネットの特設ページではイベントやスクラップブックについて詳しく紹介しています。「未来ノート 朝日新聞」で検索してください。

©朝日新聞社 無断複製転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。